

# 合唱は探究だ！

～合唱指導の映像教材作りで考えたこと～



能力開発工学センター 榎 正昭

映像教材（DVD）づくりに関わりました。中学校、高等学校の定番行事「校内合唱コンクール」において、音楽専科でないクラス担任は子どもたちにどんな指導をすればよいか…という教師向けの教材です。

内容の打ち合わせやビデオ撮影で、中学校へ何度も通いました。合唱コンクールが近づくと、生徒たちは昼休み、放課後、日曜日にも登校し、クラス一丸となって練習に取り組んでいました。

どうしたらもっと大きな声ができるか？ どうしたらもっと高い（低い）声ができるか？ どうしたら正しい音程がとれるか？ どうしたらハーモニーがきれいに響くか？ 子どもたちは教師のアドバイスで、あれやこれやと試行錯誤していました。

始めのうちは、声を出すこと、歌を覚えることに精いっぱいでしたが、何とかそれができるようになると、次なる課題が出て来ます。どうしたら歌詞の気持ちを表現できるか？ どうしたら曲全体の流れ、起承転結をつくることができるか？ というようなことまで考え、実際に歌って録音し、それを聞いては修正していました。

「合唱は探究だ！」ということにそのとき気づきました。

後で考えると「合唱も」というべきでしたが、私が見たこの合唱練習は、まさに探究プロセスそのものでした。

現在、文科省の新指導要領では「習得、活用、探究」がキーワードになっています。それらは、まず知識・技能を習得し⇒それを活用して⇒新たな課題を探究する、というような順序で進むと受け止められがちです。しかし今回の合唱練習をみると、生徒たちは合唱練習を通して、まずやってみて課題を見つけ、それを解決する方法を考え、やってみては修正していきました。そこでは、習得、活用、探究に順序はなく、それぞれが関わり合って進んでいました。

音楽専科でないクラス担任が生徒たちを指導するポイントは、まさにここにある。生徒たちに合唱を探究的につくり上げていくプロセスを経験させることではないか。それを今回の DVD の結論とすることにしました。

DVD が完成したとき、ある音楽教育の関係者が言っていました。担任の教師がこの DVD を生徒に見せるだけで上位入賞は間違いないと。「ただし他のクラスに見せないようにすれば」という条件がついていました。（笑）

（JADEC ニュース 77 号 2009 年 3 月の元稿を修正）